



Android 究極カスタマイズ オレ専用の電話帳を作る

株式会社キロル・坂下 賢司

Androidの登場により、自分のスマホ上で、自作のアプリを走らせることができるようになりました。本稿では、Androidアプリを自作する際の恰好の題材として、誰もが頻繁に使う身近なアプリの代表格「電話帳」アプリを作ってみます。それを既存の電話帳と置き換えてしまう方法も含めて、ノウハウとテクニックをやさしく紹介します。

1

Androidの電話帳アプリ

いわゆる「スマホ」と呼ばれる高機能端末がなかった時代には、携帯電話機上で自作のアプリを動作させることはできませんでした。Androidが動作する携帯電話の登場で、それが可能になりました。

Android携帯では、Google Playと呼ばれるマーケットから便利なアプリをダウンロードしたり自分で作ったアプリをインストールしたりすることができます。しかも、そのアプリで既存の電話帳機能を置き換えてしまうことだってできるのです。この章では自作のアプリを作成し、既存の電話帳機能を置き換える方法について、そのノウハウとテクニックを紹介します。

電話帳アプリに必要な基本機能

電話帳アプリはすべての機種 of Android携帯で同じなわけではありません。Google社はAndroidの一部として電話帳アプリを提供してはいるのですが、携帯電話メーカー各社が電話帳アプリをAndroid携帯の差別化要因となる重要なアプリと位置付けているのでしょうか、各社独自のものが搭載されています。そんな千差万別の電話帳アプリでも、基本的な部分は似ています。典型的な電話帳アプリは次の3つの画面を持ちます。

- **ダイヤルパッド画面**

電話番号を直接入力して発信することができる画面です。入力した電話番号で新規登録ができる機能が付いている場合があります。

- **発着信履歴画面**

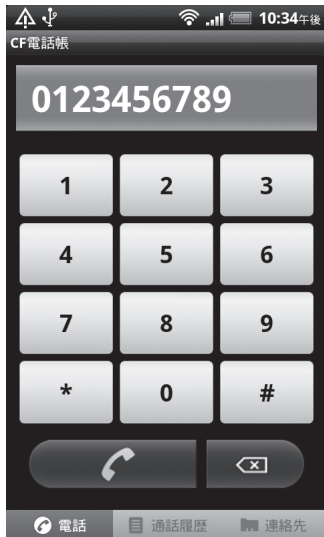
過去の発着信記録を一覧表示する画面です。選択した項目の電話番号でリダイヤルしたり、新規登録したりする機能が付いている場合があります。

- **コンタクト一覧画面**

コンタクト（連絡先）の一覧を表示する画面です。選択した相手に発信したり、その他の機能呼び出したりする、電話帳の心臓部に相当する画面です。相手を探しやすいようにグループで分類したり、「あかさたな」でインデックスを付けたりすることがあります。最もアプリを差別化しやすいのが、この画面です。

電話帳アプリの例 (CF 電話帳)

拙作「CF 電話帳」も、そんな画面を持つ典型的な電話帳アプリの1つです (図1)。コンタクト一覧画面を横にすると、名前の由来にもなっているカバーフロー (Cover Flow) 表示になるのが特徴です。



ダイヤルパッド画面



発信履歴画面



コンタクト一覧画面 (縦)



コンタクト一覧画面 (横)

図1 CF電話帳の画面